

1-4 中国思想中国哲学

研究・教育活動の概要と特色

中国思想中国哲学専攻分野における研究活動は、中国の伝統文化を政治、経済、思想、宗教、歴史、文学、科学などが緊密に関係し合う有機的統合体として捉えたうえで、その思想的宗教的側面を構成する諸現象の歴史的位置や普遍的意味を探究するものである。またその教育活動は、狭い意味においては、如上の研究活動を遂行するうえでの確乎とした学問的基盤を築くこと、広い意味では、中国の伝統文化に対する知的関心ないし人文学的教養を培うことを目的として、中国古典文（いわゆる漢文）に対する読解力の向上や中国思想に関する歴史的事実および理論的特色の修得のための訓練を、その中心に据えておこなわれる。

本専攻分野の前身である中国哲学講座の初代教授武内義雄ならびに第二代教授金谷治は、文献学的思想史学的手法により、中国の戦国時代から秦漢期にいたる諸子百家の思想、とりわけ儒道両思想の展開を解明し、また第三代教授中嶋隆藏（2006年3月退職）は、武内・金谷の手法を洗練させつつ、その研究対象を中国中世における儒仏道三教へと拡げ、その実態をあきらかにした。現在の教員は、南宋後半から清代中期にいたる時期の知識人の思想を三教交渉の視点から分析する教授三浦秀一、唐代の禅思想を中心に中世の宗教思想を解明する准教授齋藤智寛（2008年4月、京都大学人文科学研究所から着任）、元朝の首都である大都の都市的性格を制度史もしくは社会史的観点から考究する助教渡辺健哉（2007年4月就任）の3名であり、それぞれの研究分野は異なるものの、いずれも中国学の伝統的手法に依拠しつつ研究をおこなう点では、その認識を共通させる。

このように、本専攻分野における研究・教育活動の特色は、歴代教授に一貫する思想史学的方法と、各人によって相異なる研究関心とから察知させられるとおり、中国古典文・現代文の読解という基礎的学力の育成・錬磨を大前提としつつも、研究に従事する者としての自主性を最大限に尊重する点にあり、そのような方針のもとで研鑽を積んだ多くの卒業生が、現在、斯界において幅広く活躍している。

I 組織

1 教員数 (2009年9月末現在)

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：三浦秀一

准教授：齋藤智寛

助教：渡辺健哉

2 在学生数 (2009年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
8	0	3	3	0

3 修了生・卒業生数 (2005～2009年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	1	3	0
06	4	0	1
07	5	0	1
08	1	1	1
09	0	0	0
計	11	4	3

* 2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	1	0	1
09	0	0	0
計	1	0	1

*2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

高田哲太郎、2008年度、『鬼谷子』の研究

審査委員：教授・三浦秀一(主査)、教授・花登正宏、教授・佐竹保子、教授・熊本 崇、准教授・齋藤智寛

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	0	0	0	0	0
06	3	0	0	0	3
07	4	0	0	0	4
08	0	0	0	0	0
09	1	0	0	0	1
計	8	0	0	0	8

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	1	1	0	2
06	0	4	3	0	7
07	1	3	0	0	4
08	0	1	1	0	2
09	0	0	0	0	0
計	1	9	5	0	15

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

瀬尾邦雄、「徂徠学導入以前における庄内藩の儒学」、『文化』（東北大学文学会、以下同じ）、第70巻第1・2号、2006年

山崎順平、「六朝初期における観音信仰の一側面」、『集刊東洋学』、第95号、2006年

高田哲太郎、「『鬼谷子』の聖人観」、『集刊東洋学』、第96号、2006年

高田哲太郎、「『鬼谷子』の「道術」」、『文化』、第71巻1・2号、2007年

尾崎順一郎、「戴震の「一貫」解をめぐって」、『集刊東洋学』、第97号、2007年

高橋睦美、「『老子指帰』の思想について」、『集刊東洋学』、第97号、2007年

高橋睦美、「『老子指帰』の思想的位罫」、『文化』第71巻3・4号、2007年

高橋睦美、「『老子指帰』と王弼『老子』注における差異」、『日本中国学会報』第61集、2009年

(2) 口頭発表

山崎順平、「晋・劉宋における観音信仰について」、東北シナ学会二月例会、2005年2月22日

山崎順平、「晋・劉宋における観音信仰について」、東北中国学会第54回大会、2005年5月29日

中平孝一、「『史記』成立考」、東北シナ学会二月例会、2006年2月21日

中平孝一、「『史記』における「発憤著書」説の再検討」、東北中国学会第55回大会、2006年5月28日

高橋睦美、「郭店楚簡道家的文献についての一考察」、東北シナ学会二月例会、2006年2月21日

高橋睦美、「『老子指帰』の思想史上の位罫」、東北中国学会第56回大会、2007年5月27日

高橋睦美、「『老子指帰』の思想的特徴」、日本中国学会第59回大会、2007年10月7日

尾崎順一郎、「戴震思想における虚実の言説」、東北シナ学会二月例会、2006年2月21日

尾崎順一郎、「戴震の「一貫」解をめぐって」、東北中国学会第55回大会、2006年5月28日

尾崎順一郎、「焦循の一貫解について」、東北中国学会第56回大会、2007年5月27日

尾崎順一郎、「焦循の一貫解とその周辺」、2007中日博士生学術研討会、2007年7月21日

尾崎順一郎、「章学誠の「経世」観について」、東北中国学会第57回大会、2008年5月25日

高田哲太郎、「『鬼谷子』の「聖人」について」、東北中国学会第55回大会、2006年5月27日

高田哲太郎、「『鬼谷子』における「結」の構造」、日本中国学会第58回大会、2006年10月8日

小早川裕喜、「古代中国における「勢」概念の諸相」、東北シナ学会二月例会、2009年2月19日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

1名（2008年9月から、中国上海・復旦大学）

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	0	1	1
06	1	1	2
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
計	1	2	3

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	1	1
06	0	1	1
07	0	1	1
08	1	0	1
09	0	0	0
計	1	3	4

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

齋藤智寛、京都大学人文科学研究所、2005年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『集刊東洋学』（定期刊行物：東洋史・中国文学研究室との共同による中国文史哲研究会、年2回刊行）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005年度：

（研究集会）中国の思想世界、2005年8月26日

2006年度：

（研究集会）応用科学史学研究会（第1回）、2006年9月25日

（研究集会）応用科学史学研究会（第2回）、2006年12月11日

（研究集会）応用科学史学研究会（第3回）、2006年12月13日

2007 年度 :

- (国際交流準備会) 国科会中文学門訪日団 (台湾) との交流 2007 年 4 月 2 日
- (国際シンポジウム) 丁茶山の時代の韓国・日本学術史、2007 年 8 月 31 日・
9 月 1 日 (日本思想史研究室との共催)
- (研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 4 回)、2007 年 9 月 28 日
- (研究集会) 応用科挙史学研究会 (第 5 回)、2007 年 12 月 25 日

2008 年度 :

- (特別座談会) 清代思想史研究の現状と課題、2008 年 7 月 16 日
- (ワークショップ) 応用科挙史学研究会 (第 1 回)、2008 年 8 月 27 日
- (ワークショップ) 応用科挙史学研究会 (第 2 回)、2008 年 4 月 1 日

2009 年度

- (国内学会) 第 58 回東北中国学会大会、2009 年 5 月 30・31 日
- (国際学術講演会) 「晚明三教合一研究—方法論的再思考」2009 年 7 月 2 日
- (ワークショップ) 応用科挙史学研究会 (第 3 回)、2009 年 7 月 11 日
- (国際シンポジウム) 第 5 回科挙制と科挙学国際シンポジウム、2009 年 8 月
27・28 日 (北海道大学文学研究科中国文化学講座との共催)
- (国際学術講演会) 「中国における性心理学研究の新動向」2009 年 10 月 16 日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005 年度 :

- 第 158 回中哲読書会 (2005 年 7 月 23 日)
 - 高橋睦美、郭店楚簡道家的文献についての一考察
 - 中平孝一、『史記』の歴史観の整合性
 - 尾崎順一郎、戴震思想における虚実の言説
 - 李 勃、梁啓超における来日後の思想変化

2006 年度 :

- 第 159 回中哲読書会 (2006 年 10 月 4 日)
 - 相馬慎哉、『呂氏春秋』十二紀における天人観
 - 遠藤理律、『淮南子』の処世術について
 - 土肥桃果、『抱朴子』内篇にみえる儒道両思想の並存について
 - 鈴木 匠、『漢武帝内伝』における西王母像について

加藤祐一、朱熹の聖人観について

2007 年度 :

第 160 回中哲読書会 (2007 年 11 月 16 日)

片岡純也 : 五斗米道における治療行為とその宗教的意味

池田千晶 : 米芾における平淡と天真

渡邊秀一 : 蘇轍『老子解』における「道」について

加藤祐一 : 朱熹の孔子観—『四書集注』を中心に—

綿谷浩太郎 : 佐藤一斎の思想について—『伝習録欄外書』をてがかりに—

2008 年度 :

第 161 回中哲読書会 (2008 年 7 月 19 日)

小早川裕喜 : 古代中国における「勢」について—統治論を中心に—

2009 年度 :

第 162 回中哲読書会 (2009 年 7 月 18 日)

高橋睦美 : 漢魏六朝期における老子解釈の諸相と連関

渡邊秀一 : 蘇軾・蘇轍間における「道」解釈の異同について

第 163 回中哲読書会 (2009 年 9 月 26 日)

金子由佳 : 『悟真篇』の思想

豊島ゆう子 : 黄宗羲の思想

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本専攻分野における組織としての研究・教育活動は、構成員とりわけ大学院生各自が完成させようとする研究の支援を第一の目的におこなわれる。その形態は、(1) 本専攻分野単独のものと、(2) 中国の伝統文化に対する上記の捉え方から必然的に導かれるとおり、文学研究科における中国学の隣接研究室である中国語学中国文学および東洋史学の二専攻分野との共同によるものに分けられる。その前者(1)に関しては、全国的もしくは国際的な学会での研究発表や学術誌への論文投稿、およびそれを前提とした、研究室主催の論文構想発表会があり、後者(2)に関しては、学術雑誌である『集刊東洋学』の刊行①、およびそれに関連する諸行事としての投稿論文の査読、雑誌の合評会などや、三専攻分野の教員等を代表とする科研費関連の研究会②、国内外の研究者を招いての学術講演会③がある。以下、過去5年間の活動を(1)・(2)それぞれに

ついて記しつつ、点検と評価をあわせておこなう。

(1) 全国学会である日本中国学会での本専攻分野大学院生による発表数が2回、東北中国学会での発表数が8回、とその回数は少なくない。また、台湾・台北市で開催された2007中日博士生学術研討会での発表もあるのだが、やはり、国外における学会発表を含めて、いわゆる他流試合の機会を増やす必要がある。論文の公刊に関しては、いわゆる「本拠地」としての『集刊東洋学』（査読有り）だけではなく、全国的な学会誌への投稿も増やしたい。その意味で、本年度刊行の『日本中国学会報』に院生の論考が掲載されることは、その他の構成員にとって大いに刺戟になると思われる。

(2) ①『集刊東洋学』2005年5月発行の第93号から2009年5月発行の第101号までの9冊の雑誌において、中国思想分野の論説は計13本、そのなかで本専攻分野の大学院生（当時）の論文は4本である。院生の投稿数が減少傾向にあるのだが、それは、博士論文の執筆に専念するなど、個別論文の作成までには手が回らないといった事情がある。とはいえ、自身の研究成果を発表する上で、もう少し食欲な姿勢が見られても良いと思う。②四年前からの応用科挙史学研究会による研究集会、ワークショップがそれに相当する。各会は10～20名の専門家が参加し熱心な討議が交わされた。③台湾、中国、シンガポールの中国学研究者（劉海峰、鄧洪波、李兵、魏月萍、呉震各氏）、あるいは北海道大学・名古屋大学の清代学術史の専門家（水上雅晴、吉田純両氏）を招いて講演会等を開催した。

次に教育活動であるが、そのなかで学部教育（中国思想専修）は、基礎的学力を身につけ、さらにそれを発展させて卒業論文の執筆へと進めるようカリキュラムを組み、また研究室独自の勉強会による補完のもと、学習効果の向上をはかっている。学部2年次向けの基礎講読や概論の授業には、漢文の読解力を必須とする日本学やインド学等を専修する学生や、教員免許（国語）取得の必要から履修している教育学部等の学生も受講しており、文学部の他専修と同様、本専修もまた教育活動をとおして文系諸学部の学部生教育に貢献している。

大学院教育については、博士論文の作成を目標とした論文作成指導のために、各自の研究能力を向上させるような演習の時間を設け、またそこでの不足を補うべく研究室主催の研究会を定期的にひらき、さらには教員による個別指導をおこなっている。なお、大学院の後期3年を経てただちに博士学位請求論文を提出できる者がいないことは、本専攻分野の学問上の性格に関係する事柄でもあり、一概に否定的な評価は下せないのだが、六年の在学期間中に多くの大学院生が学位を取得できるよう、今後も可能な限り指導に努めたい。

Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009 年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

- 中嶋隆藏「嘉興大藏経刻印の初期事情」、『日本中国学会報』、第 57 集、日本中国学会、pp.118-132、2005 年
- 中嶋隆藏「上海博物館蔵戦国楚竹書（三）所収「互先」小考」、『集刊東洋学』、第 94 集、中国文史哲研究会、pp.1-20、2005 年
- 三浦秀一「清初四書注考二題」、『東アジア出版文化の研究・研究成果報告書』、本冊 1（同上）、pp.313-334、2005 年
- 三浦秀一「明清四書注釈書関連二表」、『東アジア出版文化の研究「出版物の研究」研究成果報告書』（同上）、pp.247-269、2005 年
- 三浦秀一「明善・觀我・野同」、『東洋史研究』、第 46 巻第 2 号、東洋史研究会、pp.65-94、2005 年
- 三浦秀一「王夫之『莊子解』における「寓庸」の立場」、『中国の思想世界』、pp.305-331、中嶋先生退休記念会、イズミヤ出版、2006 年
- 三浦秀一「牧民と神—皆川淇園『名疇』の統治者論とその思想基盤」、『茶山学』、第 11 号、茶山文化財団（韓国）、pp.247-278（ハングル版）・pp.281-313（日本語版）、2007 年
- 三浦秀一「王門朱得之の師説理解とその莊子注」、『中国哲学』、第 36 号、北海道中国哲学会、pp.79-130、2008 年
- 三浦秀一「明代科挙“程論”管窺」、『第四届科挙制与科挙学研討会英辞集』、天津市教育考試与評価研究所等、pp.301-322、2008 年
- 三浦秀一「人己両忘—陸西星『道德玄覽』を論じて王道『老子億』に遡る」、『集刊東洋学』、第 100 号、中国文史哲研究会、pp.229-249、2008 年
- 三浦秀一「陸西星及其老子注」、『全真道与老莊学国際學術研討会論文集』華中師範大学出版社、pp.636-650、2009 年
- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」、『国際科挙学研討会——第五届“科挙制与科挙学”學術研討会——報告論文集』、北海道大学大学院文学研究科中国文化論講座、pp.41-55、2009 年
- 齋藤智寛「唐宋禅宗史書の思想—祖統・伝法・聖人—」、東北大学大学院文学研究科博士学位論文、2005 年
- 齋藤智寛「王弼の見た『老子』」、『中国の思想世界』、中嶋先生退休記念事業会、イズミヤ出版、pp.149-171、2006 年

- 齋藤智寛「中央研究院歴史語言研究所傅斯年圖書館藏「敦煌文献」漢文部分叙録補」、『敦煌写本研究年報』、創刊号、西陲發現中国中世写本研究班、pp.27-52、2007年
- 齋藤智寛「『梵網經』と密教—S2272V「金剛界心印儀」の翻刻紹介にちなんで」、『敦煌写本研究年報』第2号、西陲發現中国中世写本研究班、pp.23-46、2008年
- 齋藤智寛「伯希和2462《玄言新記明老部》初探—《老子》的義疏學」、『敦煌学』、第27号、南華大学敦煌学研究中心、pp.381-395、2008年
- 齋藤智寛「悟れなかった人々—禅律双修者の祈りと救い—」、『東方学報』京都、第82冊、京都大学人文科学研究所、pp.69-117、2008年
- 齋藤智寛「禅宗“心地”思想的演變—兼談《壇經》和《曹溪大師伝》的心性論」、『仏教与中国伝統文化——楊曾文先生七秩賀寿文集』、宗性、中国社会科学出版社、pp.196-210、2009年
- 齋藤智寛「臺のない鏡——『六祖壇經』呈心偈考——」『集刊東洋学』、第101号、中国文史哲研究会、pp.43-62、2009年
- 渡辺健哉「元の大都の形成——「中国の王権と都市」によせて」、『中国の王権と都市——比較史の観点から』大阪市立大学大学院都市文化研究センター、pp.65-82、2007年
- 渡辺健哉「『永楽大典』所引の『元史』について」、『13,14世紀東アジア史料通信』、第9号、pp.9-16、2009年
- 渡辺健哉「元代科挙的『策問』与『対策』」、『考試研究』、第5巻第2期、pp.100-114、2009年
- 渡辺健哉「科挙制よりみた元の大都」、『「宋代中国」の相対化 宋代史研究会研究報告集第9集』、汲古書院、pp.183-210、2009年
- 渡辺健哉「元代科挙礼儀小考—以《永楽大典》所引《経世大典》為線索—」、『国際科挙学研討会——第五届“科挙制与科挙学”學術研討会——報告論文集』、北海道大学大学院文学研究科中国文化論講座、pp.215-224、2009年

1-2 著書・編著

(著書)

中嶋隆藏『中国の文人像』、研文出版、2005年3月

(編著)

中嶋隆藏『明万曆嘉興大蔵經の出版とその影響』科研費研究成果報告書、2005年

3月

三浦秀一『東アジア出版文化の研究「出版物の研究」研究成果報告書』、2005年

3月

三浦秀一『中国の思想世界』、イズミヤ出版、2006年3月

三浦秀一『明代荘学史研究』、科研費研究成果報告書、2006年3月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

中嶋隆藏「二十世紀後半日本之孔子研究」、『日本漢学研究続探・思想文化篇』、東亜文明研究叢書、pp.271-294、2005年

三浦秀一「中嶋隆藏教授の業績と学風」、『文化』、第69巻第3・4号、東北大学文学会、pp.21-25、2006年

齋藤智寛（翻訳）「天空の文字—道教の符図文献とその分析—」、『中国宗教文献研究』、臨川書店、pp.265-291、2007年

齋藤智寛「それぞれの浄土」、『人文』、京都大学人文科学研究所、pp.44-45、2007年

齋藤智寛「2007年“仏教文献与文学”会議將於日本召開」、『2007 敦煌学国際ネットワーク委員会通訊』、上海古籍出版社、pp.153-154、2007年

齋藤智寛「温にして厲——『東アジアの宗教と文化』を読む」、『東方』第340号、東方書店、pp.28-30、2009年

渡辺健哉「大都研究の現状と課題」『中国——社会と文化』、第20号、中国社会文化学会、pp.520-528、2005年

渡辺健哉「書評 新宮学著『北京遷都の研究』」、『山形大学歴史・地理・人類学論集』第7号、山形大学歴史・地理・人類学会、pp.69-78、2006年

渡辺健哉「近年の元代科挙研究について」、『集刊東洋学』第95号、中国文史哲研究会、pp.83-93、2006年

渡辺健哉「書評 久保田和男著『宋代開封の研究』」、『史学雑誌』、第117巻第8号、史学会、pp.96-105、2008年

1-4 口頭発表

三浦秀一「明末における桐城方氏の家学とその継承」、北海道中国哲学会7月例会、2005年7月27日（札幌市・北海道大学）

三浦秀一「明代荘学と王夫之・方以智の荘子注」、研究集会・中国の思想世界、2005年8月26日（東北大学）

- 三浦秀一「16 世紀における莊子註と陽明学との出会い」、東アジアの經典解釈における言語分析第 1 回国際學術シンポジウム、2006 年 8 月（札幌市・北海道大学）
- 三浦秀一「論策の魅力」、応用科挙史学研究会（第 2 回）、2006 年 12 月 11 日（東北大学）
- 三浦秀一「四書・莊子・科挙」、東アジアの經典解釈における言語分析第 2 回国際學術シンポジウム、2007 年 7 月 21 日（台湾台北市・台湾大学）
- 三浦秀一「牧民と神」、国際シンポジウム「丁茶山の時代の韓国・日本學術史」、2007 年 8 月 31 日（東北大学）
- 三浦秀一「方氏家学と明末清初の思潮」、ワークショップ「方以智とその時代」、2007 年 9 月 13 日（台湾台北市・中央研究院中国文哲研究所）
- 三浦秀一「明代思想研究の愉しみ」、東北シナ学会 4 月例会、2008 年 4 月 12 日（東北大学）
- 三浦秀一「陸西星及其老子注」、全真道与老莊学国際學術研討会、2008 年 4 月 19 日（中国武漢市・華中師範大学）
- 三浦秀一「明代の科挙における「程論」について」、応用科挙史学研究会第 1 回ワークショップ、2008 年 8 月 27 日（東北大学）
- 三浦秀一「明代科挙“程論”管窺」、第四届科挙制与科挙学研討会、2008 年 10 月 14 日（中国天津市・天津市教育招生考試院）
- 三浦秀一「明代科挙策題初探」、応用科挙史学研究会第 2 回ワークショップ、2009 年 4 月 1 日（東北大学）
- 三浦秀一「明代科挙関連文献に関する二、三の「新」知見」、東洋大学中国学会、2009 年 7 月 25 日（東京・東洋大学）
- 三浦秀一「明代科挙「性学策」史稿」、第五回科挙制与科挙学研討会、2009 年 8 月 27 日（札幌市・北海道大学）
- 齋藤智寛「伯希和 2462《玄言新記明老部》初探—《老子》的義疏學」、2006 漢学研究国際學術研討会、2006 年 10 月 26、27 日（台湾雲林科技大学漢学資料整理研究所）
- 齋藤智寛「大乘菩薩戒の道—『梵網經』と東アジア仏教」、第四回 TOKYO 漢籍 SEMINAR、2008 年 3 月 8 日（東京・學術総合センター）
- 齋藤智寛「無臺明鏡照心地—《六祖壇經》的偈頌及其心性論」仏教文献与文学国際學術研討会、2008 年 10 月 24、25 日（台湾高雄仏光山国際會議庁）
- 渡辺健哉「元朝における「首都圏」について——その予備的考察——」、東北史

学会大会（2005年度）、2005年10月2日（福島大学）

渡辺健哉「元の大都の形成について」、大阪市立大学大学院文学研究科 COE 重点研究共催シンポジウム「中国の王権と都市」2005年12月17日（大阪市立大学）

渡辺健哉「元代科举研究の現状と課題」、応用科举史学研究会（第1回）2006年9月21日（東北大学）

渡辺健哉「元の大都における科举儀礼について」、東北中国学会大会（第56回）、2007年5月27日（山形・蔵王温泉）

渡辺健哉「高麗人の見た元の大都—高麗出身進士の史料をてがかりに」、応用科举史学研究会（第4回）、2007年9月28日（東北大学）

渡辺健哉「元代皇帝の居所について」、宋代史談話会（第109回）、2008年4月26日（大阪市・大阪市立大学）

渡辺健哉「元の大都における祭祀施設について」、東北中国学会大会（第57回）、2008年5月25日（北海道小樽市・朝里クラッセホテル）

渡辺健哉「元代の科举における「策問」と「対策」」、応用科举史学研究会第1回ワークショップ、2008年8月27日（東北大学）

渡辺健哉「関于元代科举的“策問”与“对策”」、第4届科举制与科举学研讨会、2008年10月14日（中国天津市・天津市教育招生考试院）

渡辺健哉「元代における両都巡幸制について」2008年度九州史学会大会、2008年12月15日（福岡市・九州大学）

渡辺健哉「元代科举儀礼小考——『永楽大典』所引『経世大典』をてがかりに——」、応用科举史学研究会第2回ワークショップ、2009年4月1日（東北大学）

渡辺健哉「元代の科举儀礼」、比較都市文化史研究会・第121回宋代史談話会、2009年6月13日（大阪市・大阪市立大学）

渡辺健哉「元大都的宮殿建設」、紀年元大都国際学術研讨会、2009年7月29日（中国北京市・蟹島緑色生態度假村）

渡辺健哉「元代科举礼儀小考——以《永楽大典》所引《経世大典》為線索——」、第5回“科举制と科举学”国際シンポジウム2009年8月27日（札幌市・北海道大学）

2 教員の受賞歴

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009 年度）

（1）科学研究費補助金

2005 年度：

三浦秀一「明代荘学史研究」（研究代表者、120 万円（直接経費））

2006 年度：

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」（研究代表者、470 万円（直接経費））

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国学術史及び思想史の研究」（研究代表者、140 万円（直接経費））

2007 年度：

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」（研究代表者、390 万円（直接経費））

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国学術史及び思想史の研究」（研究代表者、100 万円（直接経費））

2008 年度

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」（研究代表者、320 万円（直接経費））

齋藤智寛「『老子』の注釈史及び受容史を中心とした中国学術史及び思想史の研究」（研究代表者、100 万円（直接経費））

2009 年度

三浦秀一「思想史的社会史的史料としての科举答案に関する基礎的研究」（研究代表者、210 万円（直接経費））

（2）その他

なし

V 教員による社会貢献（2005～2009 年度）

三浦秀一：仙台第一高等学校模擬授業、2008 年 11 月 14 日

渡辺健哉：岩手県立盛岡北高校模擬授業、2007 年 12 月 8 日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009年度）

三浦秀一：

日本道教学会（評議員・08年から理事）

中国文史哲研究会（常任編集顧問）

東北中国学会（幹事）

日本中国学会（評議員・07年から将来計画検討委員会委員も）

齋藤智寛：

中国文史哲研究会（常任編集顧問）

VII 教員の教育活動（2009年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

三浦秀一

1学期：中国思想中国哲学研究演習Ⅰ（明儒学案研究）

：中国思想中国哲学研究演習Ⅲ（中国思想研究上の諸問題1）

2学期：中国思想中国哲学特論Ⅱ（湛甘泉思想研究）

：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ（中国思想研究上の諸問題2）

齋藤智寛

1学期：中国思想中国哲学特論Ⅰ（唐代道仏交渉史）

：中国思想中国哲学研究演習Ⅲ（中国思想研究上の諸問題1）

2学期：中国思想中国哲学研究演習Ⅱ（『墨子』非儒篇研究）

：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ（中国思想研究上の諸問題2）

山田 俊（非常勤講師・熊本県立大学教授）：

集中講義：中国思想中国哲学特論Ⅲ（宋代道家・道教思想史研究）

2 学部授業担当

三浦秀一

3セメ：中国思想概論（中国近世前期思想史概説）

4セメ：中国思想概論（清末民国初期思想概説）

：中国思想基礎講読（中国思想文献読解・初級2）

5セメ：中国思想演習（陽明後学の思想）

6セメ：中国思想各論（嘉靖期の思想と学術）

齋藤智寛

3セメ：中国思想基礎講読（中国思想文献読解・初級1）

5セメ：中国思想各論（唐代の道教と仏教）

6セメ：中国思想演習（先秦諸子原典講読）

山田 俊（非常勤講師・熊本県立大学教授）

集中講義：中国思想各論（宋代道家・道教思想史研究）

3 共通科目・全学科目授業担当

齋藤智寛：

1セメ：人文社会総論（担当日6月5日）

（2）他大学への出講（2005～2009年度）

三浦秀一：

2005年度～2009年度（宮城教育大学）

2005年度（北海道大学、京都大学）

2008年度（名古屋大学）

2009年度（東洋大学）

渡辺健哉：

2007年度（山形女子短期大学）